28K-pm15

電子お薬手帳システム harmo のジェネリック置換率への影響分析

○五十嵐 中[1], 福士 岳歩[2], 新谷 眞介[2], 高木 芳徳[2], 渡邉 普[2]（[1]東大院薬, [2]ソニー）

【目的】演者らが開発したクラウド＋IC カードベースの電子お薬手帳システム「harmo(ハルモ)」は、医療機関と薬局の円滑な連携をめざし、情報共有機能や、残薬推定機能、さらにはジェネリック意思確認機能を具備している。この機能が残薬管理や後発医薬品の利用促進に対して寄与する可能性につき検証および考察を行った。

【方法】クラウド＋IC カードベースの電子お薬手帳システム「harmo(ハルモ)」は、現在、10 都市で 648 薬局 30000 名以上に利用されている。、推定残薬数表示機能・患者によって入力されたジェネリック転換希望の有無を表示する機能が搭載されている。これらの機能と参加施設から得られた匿名化調剤情報をもとに、残薬の規模並びにジ後発医薬品への変更状況を分析した。

【結果】２年間(2013 年 12 月～2015 年 11 月)において調剤された、30,313 人の患者・190,201 枚の処方箋情報が登録された。延べ調剤数約 5085 万個、薬剤費約 23 億円に相当するデータ量である。このうち 2015 年 4 月 1 日～11 月 25 日に調剤された約 4113 万個に対してジェネリック転換希望フラグの入力内容と後発品置き換え比率（数量ベース）の関係を分析した。その結果、全体の同比率が 54%なのに対し、同フラグを入力した患者の同比率は 71%であった。

【結論】harmo 電子お薬手帳システムでの残薬管理のポテンシャルが示された。また、ジェネリック転換希望フラグの設置により、入力した患者の後発品置換率が高くなっていることも示された。harmo 電子お薬手帳システムは、医療機関との連携ツールとして有用であり、今後もその活用が期待される。